

情勢報告（令和元年 6 月分）

中央東農業振興センター嶺北農業改良普及所

ミニトマト生育調査 ～品種特性把握を目指して～



生育調査中の職員

大豊町庵谷でミニトマト‘サンチェリーピュアプラス’の品種特性を把握するため、5月27日から週1回、生育調査を行っています。今年から「大豊とまと」6人が栽培を始めた新品種は‘アイコ’と比べ、ヘタ落ちや裂果が少なく、品質向上や収穫労力の軽減が見込まれます。

生産者からは、「生育状況を数字で見ることができ、他の生産者との比較がしやすくなった」との声が聞かれました。

今後も普及所は生育調査を継続し、新品種の栽培基準を作成するよう支援していきます。

GAPの取組をステップアップするために必要なことは何だろう？

～グローバルGAP認証取得農家視察研修～



取組内容について熱心に勉強する参加者

5月27日、JA高知県れいほく営農経済センター営農指導員2人、普及所3人は、香南市でグローバルGAPの認証を取得して、メロンを栽培している株式会社篤農を視察研修しました。

代表取締役の森岡健児氏からは、世界に通用する農業を目指すというビジョンのもと、GAPの取組内容や工夫などを学びました。

参加者からは、「高い意識を持ち、GAPを経営改善の道具として使いこなしていることに感銘をうけた」、「今後、嶺北の生産者がGAPに意欲を持って取り組むことができるよう検討したい」という声が聞かれました。

普及所は、今回の視察研修で得られた情報をGAP通信で提供するなど、生産者の取組意欲の向上につながる情報を発信していきます。

新規就農者確保に向けた移住・観光施策との連携 ～本山町との意見交換会～



5月30日、普及所（11人）と本山町まちづくり推進課の観光・移住担当（3人）は、U・Iターンによる新規就農者の確保を進めるため、地域のPRや住居確保等の情報発信について意見交換会を開催しました。普及所からは産地提案書の取組について、本山町からは、移住相談会等について情報を共有しました。過去4年間に本山町に移住した100人の内、就業者が70人で、うち農業者は3人です。今後、双方がさらに連携する必要性を確認しました。

普及所では、地域で作成している米ナスやカラーピーマン等の産地提案書を充実します。

全員で収量アップを目指そう!～甘長トウガラシ現地検討会・目慣らし会～



栽培管理について協議中

5月30日、土佐町で甘長トウガラシの現地検討会・目慣らし会が開催され、生産者10人が参加しました。

普及所では、すでに尻腐れ果が発生しているほ場が見られることから、今後の管理について、尻腐れ果対策に重点を置いて説明しました。

生産者からは、「灌水量はどのくらい必要か」など、活発な意見交換が行われ、尻腐れ果の軽減や増収にむけ意欲を燃やしていました。

今後、JAと協力して先進地視察研修等を行い、生産者の栽培技術が向上するよう支援していきます。

第1回ユズ産地協議会を開催しました。



協議会の様子

6月10日にJA、町、生産者代表、普及所、県関係機関19人が参加し、ユズ産地協議会が開催されました。会では、本年度の活動計画、輸出の推進、農家意向調査等について協議しました。

普及所は、耕作放棄地を活用したユズの生産拡大、JAを中心とした作業受託システム構築について提案し、農家意向調査で、実態を把握することになりました。

今後も普及所は、JA、町と連携して、生産者への栽培指導、省力機器の導入に向けた支援策の検討を進めていきます。

梅漬け美味しくできるかな?～伊勢川営農組合



ウメの実のヘタを取る組合員

6月11日から土佐町伊勢川営農組合で梅漬けの加工が始まり、組合員15人が参加しました。

前日に収穫したウメの実を選別後、ヘタを取り、塩漬けしました。今後、梅漬けに加工し、嶺北内外の直販所に出荷していきます。

普及所は作業スケジュールの作成や、収穫時期の見極め等を指導しました。

今後も普及所はウメの栽培（礼肥施用）や梅漬け加工・販売促進を通して、伊勢川営農組合の所得向上を支援していきます。

オリジナル品種‘ノーブル’等の振興の方向性について～関係機関で協議～



振興策について意見交換

6月12日、とされいほく花き部会では、ユリのオリジナル品種の振興について、県の花きアドバイザー他、関係機関の担当者が集まり意見交換しました。

普及所からは、生産者が球根養成や切り花生産を行っており、生産が不安定となっている現状や改善策について情報提供しました。

花きアドバイザーからは、商談会では一番人気で、生産拡大しても大丈夫である。専技からは、球根養成事例などの情報がありました。

今後も普及所は、オリジナル品種の生産拡大のための方策について、関係機関や生産者と協議、提案しながら支援していきます。

新たなキムチ商品の開発・売り込み ～6次産業化支援チーム会～



キムチピザを作る「うれっこ」

6月20日、普及所で「本山町キムチ生産組合うれっこ（以下うれっこ）」2人、6次産業化アドバイザー2人、普及所1人が、「うれっこ」のキムチ販売及び商品開発について検討し、本年度の活動内容を決めました。

前年度に開発した「はちみつ梅キムチ」「キムチピザ」は、本年度中に商品化して販売を開始し、新たにゴボウを素材にしたキムチを開発することになりました。

普及所は、商品開発や販路拡大等、6次産業化による農家所得の向上にむけ支援していきます。